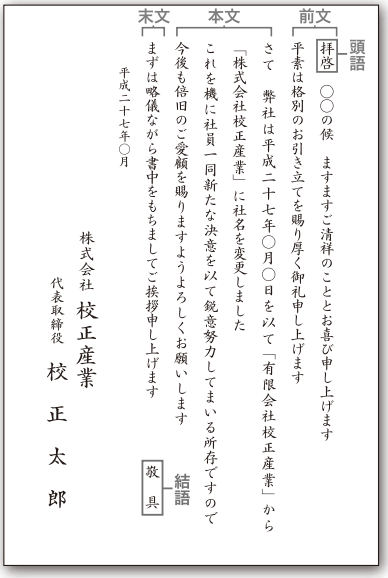
校正ノート

No.3

2015.1

プリプレス部 校正担当／中里
制作／竹沢

●挨拶状について●


頭語
拝啓　○○の候　ますますご清祥のこととお喜び申し上げます
前文
平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます
本文
さて　弊社は平成二十七年○月○日を以て「有限会社校正産業」から
「株式会社校正産業」に社名を変更しました
これを機に社員一同新たな決意を以て鋭意努力してまいる所存ですので
今後も倍旧のご愛顧を賜りますようよろしくお願いします
末文
まずは略儀ながら書中をもちましてご挨拶申し上げます
結語
敬具
平成二十七年○月
株式会社　校正産業
代表取締役　校　正　太　郎

【頭語・結語】

一般的には、頭語に「拝啓・拝呈・啓上」、結語に「敬具・敬白・拝具」の組み合わせ。丁重な手紙では、頭語に「謹啓・恭啓・粛啓・謹白・謹呈」、結語に「敬具・謹言・謹白・頓首・敬白」を組み合わせる。主に使われるのは、「拝啓―敬具」、「謹啓―謹白」等である。年賀状・寒中見舞・暑中見舞などの季節の挨拶・お見舞・弔事の手紙では不要である。

【前　文】

時候の挨拶（○○の候）と、例えば「ますますご清祥のこととお慶び申し上げます」と入れて、ほとんど定型化している。

時候の挨拶の例一覧

一月	初春・新春	五月	立夏・新緑
二月	立春・厳寒	六月	初夏・梅雨
三月	早春・春暖	七月	仲夏・大暑
四月	陽春・晩春	八月	盛夏・晩夏
		九月	初秋・秋分
		十月	仲秋・秋冷
		十一月	晩秋・向寒
		十二月	初冬・師走

【本　文】

本文が始まる前に、「私こと」「私儀」を行末に、または文頭「さて」の後に入れることがある。その際、級数を他とそろえるか、他より小さくするかは随意。両方とも遜り（へりくだり、相手への謙遜）の意味合いをもつ自分を表す言葉であり、「私個人のことで恐縮ですが…」との気持を込める。「私こと」の方が少し軟らかい言い方である。「儀」は身内のことにも使われる。縦書きの挨拶状の場合、「句読点（、や。）」「段落落とし（段落の始めに一文字分あけること）」は入れないのが正式である。特に仏事やビジネスユースの挨拶状など格式張ったフォーマルな挨拶状では、句読点は入れない。

【末　文】

定型化した入れ方の例「略儀ながら書中を以てご挨拶といたします」「ご自愛ください」は、ご自身の体を大切にしてください、という意味で、男女共に使え、目上の人にも用いることができる。ご自愛の中に体を大切にとの意味が含まれているので、「お体をご自愛ください」とは言わない。

2015 年賀状採用ベスト

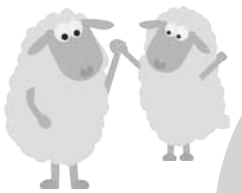
12月15日現在（文章・イラストのみ採用を含む）

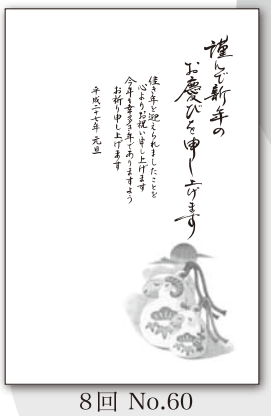
第1位

10回 No.72

イラストのみの採用がほとんどで、「敬頌新禧」は通用していない。

今年はイラストと文章を別々に組み合せる事例が例年以上に多かった感じがする。





8回 No.60

第2位（3点）

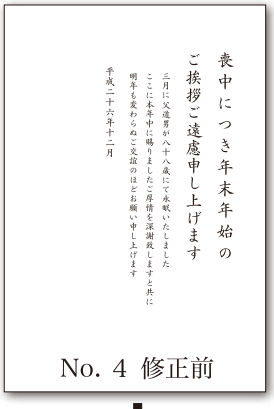
8回 No.28

8回 No.22

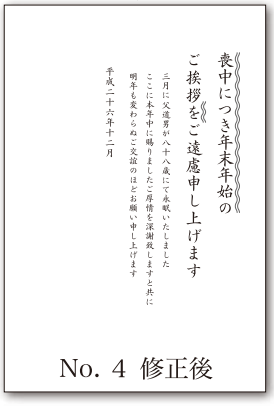
●喪中ハガキについて●

今年の喪中はがきの校正では、サンプル喪中４の文面を直す指示が数例見られた。「喪中につき年末年始の」の文字間を詰める、「ご挨拶」と「ご遠慮」の間に「を」を入れる、の二点である。次回のサンプル作成に生かしたい。

亡くなられた方の享年を入れる場合、例年「才」をサンプルに載せていたが、「才」と「歳」はもともと意味の違う文字であり、「才」は「歳」の代用で用いられるようになった経緯があるので、今回のサンプルから正式の「歳」を採用した。


喪中につき年末年始の
ご挨拶ご遠慮申し上げます
三月に父逝去が八十八歳にて永眠いたしました
ここに本年中に賜りましたご厚情を深謝致しますと共に
明年も変わらぬご交誼のほどお願い申し上げます
平成二十六年十二月

No. 4 修正前


喪中につき年末年始の
ご挨拶をご遠慮申し上げます
三月に父逝去が八十八歳にて永眠いたしました
ここに本年中に賜りましたご厚情を深謝致しますと共に
明年も変わらぬご交誼のほどお願い申し上げます
平成二十六年十二月

No. 4 修正後

竹沢メモ

冬も到来し、実家の栃木市と鹿沼市では少しばかり厳しさが違いました。

朝は車のフロントガラスが凍っていて、お湯をかけて出発します。

宇都宮での初めての冬、寒さに負けず体調管理に気をつけて、年末はゴロゴロして笑おうと思います。